

| 会議開催日 | 学会名 | 会議内容 | 出席者 |
|----------------------|-----------------------|--|-----------|
| 平成 25 年 11 月 15 日 | 社団法人日本専門医 制評価・認定機構 | 「機構評価委員会からヒアリ ングの現状と展望」について の説明会 | 佐々木寛・植田政嗣 |
| 平成 25 年 12 月 3 日 | 社団法人日本専門医 制評価・認定機構 | 臨時社員総会 | 岡本聡 |
| 平成 25 年 12 月 24 日 | 一般社団法人医療関 連サービス振興会 | 平成 25 年度第 3 回衛生検査所 専門部会 | 島山重春 |
| 平成 26 年 2 月 20 日 | 一般社団法人医療関 連サービス振興会 | 平成 25 年度第 3 回衛生検査所 調査指導中央委員会 | 八重樫伸生 |
| 平成 26 年 2 月 28 日 | 社団法人日本専門医 制評価・認定機構 | 平成 25 年度第 2 回社員総会 | 岡本聡 |

〔審議事項〕

特になし

社会保険委員会（委員長 稲山嘉明）

〔報告事項〕

1. 平成26年5月27日に開催された内保連総会において、病理関連委員会の設置が承認されたが、その経緯について説明した。
2. 内保連会費が、今年度より10万円から20万円に値上げとなる。

〔審議事項〕

特になし

地域連絡委員会（委員長 児玉省二）

〔報告事項〕

1. 平成 24 年度支部活動報告、連合会活動報告は現在集計中(次の理事会にて報告予定)。
2. 平成 24 年度細胞診検体(定点観測)に関するアンケートの集計。
3. 全国地域連携組織および連合地域組織との連携:契約終了。
地域代表者会議の開催(今年度総会での予定を延期)。
4. 「子宮の日」の活動支援について
制度審議委員会からの地域連携に関する施行細則の改正案が承認され、地域公益目的事業の一環として現在全国で行われている「子宮の日」の子宮頸がん検診推進活動に関して平成 26 年度についても、施行細則に記載されている手続きを事後に行い、日本臨床細胞学会から助成金が支給されることが承認された。

国際交流委員会(委員長 内藤善哉)

[報告事項]

1. 2 国間交流

1) 第13回日韓細胞診合同会議

開催日：2014年11月1日(土曜日)

会場：調整中

2) 第22回日本・タイ細胞診ワークショップ

開催日 2015年1月14日(水)～16日(金)

開催地：プーケット島で開催予定。

3) 第6回日中細胞診合同会議は開催に向けて日程等調整中。

2. 国際・アジアフォーラム

1) 第55回日本臨床細胞学会春期大会(会長 中山裕樹)

開催日：2014年6月5日(木)～7日(土)

開催地：横浜(パシフィコ横浜)

国際・アジアフォーラム(Global Asia Forum)

担当；河合委員，長尾委員

2) 第53回日本臨床細胞学会春期大会(会長 亀井敏昭)

開催日：2014年11月8日(土)～9日(日)

開催地：山口

国際・アジアフォーラム(Global Asia Forum)

担当；加来委員，南部委員

3. 国際交流報告

カンボジア王国への病理・細胞診断及び病理組織，細胞診標本作製技術に関する交流。
インドネシア，ミャンマー，ベトナムとの学术交流。

[審議事項]

特になし

制度審議委員会(委員長 川本雅司)

[報告事項]

1. 承認に基づく定款細則，施行細則，内規・申合集の改定を実施した。

[審議事項]

1. 総会決議事項

「定款」改定案提示：総会決議要(2/3以上の賛成要)

「会費等に関する規程」改定案：総会承認要(過半数で承認)

2. 「細胞診専門医会に関する施行細則」，「細胞検査士会に関する施行細則」改定，承認の手順。

IAC 連絡委員会 (委員長 長村義之)

[報告事項]

1. 日本臨床細胞学会(JSCC)会員から Acta Cytologica へは直接投稿する旨 JSCC 編集委員会に依頼した。
2. 前回日本で行われた IAC 試験に関する赤字額の 50%を IAC が負担した。

[審議事項]

1. ICC2016 に向けてのプログラム, IAC Award など IAC との日程調整
2. IAC 試験に関する JJSCC との調整事項

第 19 回 IAC 国際細胞学会準備委員会 (委員長 青木大輔)

[報告事項]

1. ICC2016の開催要綱
開催時期:2016 年(平成 28 年)5 月 28 日(土)- 6 月 1 日(水)(5 日間)
開催場所:パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)
2. ICC2016と日本学術会議との共同主催について
日本学術会議に対して共同主催を申し入れ, 2014 年 2 月 3 日のヒアリングの結果, 保留となった。再審査のためヒアリング開催の可否について 2014 年 9 月ころに再度連絡が入る予定である。

[審議事項]

1. ICC2016と同時期に開催される第 57 回日本臨床細胞学会総会(春期大会)は 2016 年(平成 28 年)5 月 27 日(金) - 5 月 29 日(日)の日程で開催されることが決定した。

肺がん学会とのワーキンググループ (委員長 池田徳彦)

[報告事項]

1. 前癌病変と早期扁平上皮癌の喀痰細胞診標本 150 例を 6 施設で見合わせ, 精度管理の検討をした。

[審議事項]

特になし

泌尿器細胞診の報告様式に関するワーキンググループ (委員長 金城満)

[報告事項]

1. コア委員会(4月及び9月): 報告様式の最終案の決定と欧米案とのすりあわせについて Paris system of urinary cytology では現在, 以下の 8 つの small-WG が活動しており, 進捗状況は同一ではない。昨年の 11 月以来, 一堂に会する会議は今までなく, 主にメールでの意見交換や電話会議が主体となっている。I. Nondiagnostic or Unsatisfactory - Barkan; II. Negative for malignancy - Wojcik, Rosenthal; III. Atypical Urothelial

Cells of Uncertained Significance (AUC-US) - Barkan, Piaton ; IV. Atypical Urothelial Cells Suspicious for High Grade Urothelial Carcinoma (AUC-HG) - Rosenthal, Piaton→Rosenthal, Brimo に変更 ; V. Low Grade Urothelial Carcinoma (LGUC) - Wojcik ; VI. High Grade Urothelial Carcinoma (HGUC) - Siddiqui ; VII. Other Malignancies Priamary and Metastatic - Hoda ; VIII. Ancillary Studies - Bubendorf, Strojan-Flezar

2. 泌尿器細胞診の診断ガイドラインを作成し、診断から報告、治療法への反映までの流れを小冊子にして秋期大会を目処に出版するための予算を計上した。報告様式と共に尿細胞診の標準化のためのガイドラインとしたい。
3. 平成 26 年度「泌尿器細胞診報告様式に関する WG」予算案に、委員の海外派遣費を 1 人分の半額補助(25 万円)を盛り込み、11 月に予定している小冊子の印刷費として 50 万円を計上した。
4. 5 月 18 日にコア委員会を行い、最終方針の確認した。
 - 1) 尿細胞診の報告様式は患者関連情報と診断報告は多くはチェック方式を採用することとした。
 - 2) 第 1 段階で検体の適正、不適正を評価し、第 2 段階で細胞診断を 4 段階方式でカテゴリ分類をすることとした。各カテゴリにおいては、高異型度尿路上皮癌検出リスクを付記する。そのために、昨年全国 8 施設より約 400 症例を提供してもらい、各カテゴリのリスク算定をするために現在解析中である。その内容は論文にして発表する予定で、現在執筆中である。
 - 3) 4 段階カテゴリの各カテゴリの名称を検討し、学会中の合同委員会へ提案することにした。
5. 今後の活動計画
 - 1) 11 月までに新尿細胞診の診断標準化のための診断ガイドラインを作成する。
 - 2) 11 月までに泌尿器細胞診の報告様式の最終案を作成する。
 - 3) 関連論文を英文で作成する。
 - 4) 第 53 回日本臨床細胞学会秋期大会で最終案をシンポジウムで報告する。
 - 5) Paris system との連携を進める。

[審議事項]

特になし

細胞検査士スライド試験問題集作成ワーキンググループ (委員長 広岡保明)

[報告事項]

1. 平成 26 年 4 月【細胞検査士細胞像試験問題集】が医歯薬出版社より発刊された。
2. 細胞学会雑誌および細胞学会雑誌抄録集への広告を出す予定(5 回)。
3. 本問題集の広告掲載が終了した時点(秋の抄録集発行時)でWGを終了することとした。

[審議事項]

特になし

細胞診ガイドライン作成ワーキンググループ（委員長 内藤善哉）

[報告事項]

1. 2014年4月末頃、金原出版社に最終原稿提出予定で、概ね、順調に進んでいる。
2. 第55回日本臨床細胞学会総会（春期大会）にて、婦人科(子宮体部・卵巣・外陰/膣/子宮頸部)、甲状腺、乳腺、体腔液各委員長よりガイドライン内容を発表予定。
3. 現在、peer reviewを進め、問題点など金原出版社とともに協議している。
4. 新しいWHO分類の刊行により、臓器によっては最終原稿提出が遅れる見込みである。
5. 第53回日本臨床細胞学会秋期大会にて各委員長よりガイドライン内容を発表予定。
6. 2015年3月、細胞診ガイドライン発行予定。
7. 第56回日本臨床細胞学会総会（春期大会）にて各委員長よりガイドライン内容を発表予定。

[審議事項]

特になし

口腔細胞診ワーキンググループ（委員長 関根浄治）

[報告事項]

1. 口腔細胞診の精度に関する多施設共同調査
平成26年4月5日(土)、学会事務局会議室にて450症例の検鏡を施行。
参加者：細胞診専門医・専門歯科医10名 細胞検査士1名
結果は、第55回日本臨床細胞学会春期大会(学会主導型スタディーの動向報告)にて、発表予定。

[審議事項]

特になし

婦人科臨床試験ワーキンググループ（委員長 青木大輔）

[報告事項]

1. 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA検査の併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(山梨県、千葉県柏市)：
子宮頸がん検診において、細胞診(LBC)にHPV DNA検査を併用することの有用性について比較検討するため症例登録を行った。2014年度も症例登録を継続する方針である。
[登録症例数](2014年3月末集計時)：12,068例 (目標登録症例数30,000例)
2. 「子宮頸がん検査における従来法細胞診と液状化検体細胞診の性能比較研究」：
ASC-US以上の細胞診異常を指摘され実施医療機関を受診した被験者を対象として、子宮頸部病変の検出における従来法細胞診と液状化検体細胞診の診断性能を組織診の結